

# TAMA CINEMA 通信



TAMA CINEMA FORUM

TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山(永山公民館内)  
代表:042-337-6661 直通:080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>

特別上映会 6/9 ベルブホール (ベルブ永山 5F 京王永山駅・小田急永山駅下車徒歩約2分)

心理療法の常識をくつがえし、  
愛と芸術で人を癒したある女医の真実の物語

## ニーゼと光のアトリエ



### 上映スケジュール

10:30 — 12:19 第1回上映 ★  
13:00 — 14:49 第2回上映 ★  
14:55 — 15:35 ゲストトーク  
16:00 — 17:49 第3回上映  
18:30 — 20:19 第4回上映

★保育サービスあり

\*全席自由・各回入替制。開場は15分前です。

\*上映時間は変更になる場合があります。

### チケット料金

前売：大人(中学生以上) 1,000円

当日：大人(中学生以上) 1,200円

TAMA映画フォーラム支援会員、障がい者と  
その付添者1名は、当日600円です (R15+)

第2回上映後に、佐久間寛厚氏(アトリエ・エレマン・プレザン東京代表)、  
藤木晃宏氏(株式会社芸術造形研究所 取締役)をお迎えしてゲストトークを開催いたします。

佐久間寛厚氏(アトリエ・エレマン・プレザン東京代表)

1977年生まれ。ダウン症の人たち専門のプライベートアトリエ、アトリエ・エレマン・プレザン東京代表。ダウン症の人たち本来の感性が動き出すための制作環境を整え、彼らと共に過ごす。展覧会、公共機関やショップ、様々な環境の中への作品展示、企業とのコラボによる企画等を通じて、ダウン症の人達の持つ優れた感性と社会を繋ぐべく活動している。また彼らの内面にある世界観を調和の文化として、知ってもらうために、各地で講演、トーク等を行っている。

藤木晃宏氏(フレスコ画家/臨床美術士1級/  
株式会社芸術造形研究所取締役)

1961年兵庫県生まれ。1998年に株式会社芸術造形研究所へ入社。様々な臨床美術のセッションに携わり、臨床美術士養成講座の講師を担当。その後、アートプログラム開発や養成講座カリキュラム構築にかかわり、2008年より教育事業部部長、2013年に取締役就任。

### ◆◆◆◆◆ 上映に寄せて ◆◆◆◆◆

精神外科やショック療法が熱心に行われていた1940年代のブラジル。ナースが運営していた作業療法部門を受け持つことになった医師のニーゼは、精神病患者たちに必要なのは暴力的な扱いではなく自由な表現の場だと考えて病室をアトリエに作り変える。患者たちの作品にだんだんと個性が表れていく様子を実感するニーゼだったが、新たに始めた動物セラピーが周囲からの反感を買い、ある事件を引き起こしてしまう。

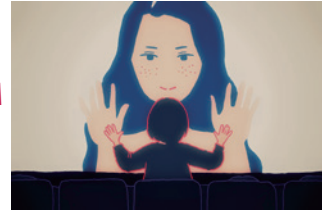
東京国際映画祭でグランプリと最優秀女優賞をW受賞したものの、公開規模が小さく、またソフト化もされていない本作。1940年代のブラジルで自分の意志を曲げずに戦った知られざる女性精神科医ニーゼ・ダ・シルヴェイラを多くの方に知ってほしい。主演のグロリア・ピレスの情熱的でひたむきな演技はもちろん、精神病患者たちの言葉にならない言葉の表現も素晴らしく、アトリエのシーンでの巧みな構図と合わさることで、社会のアウトサイダーであった患者たちの内面がしずかにあたたく心に伝わってくる。(永井)



5/5(土) ベルブホール

女の子よ カメラを持とう × TAMA CINEMA FORUM

## ～ 映画の中の私たち ～



5月5日の特別上映会は、「映画の中の私たち」と題しまして、新鋭監督である、レナ・ダナム監督の『タイニー・ファニチャー』と山戸結希監督の『あの娘が海辺で踊ってる』、『おとぎ話みたい』、『Girls of Cinema』、『COSMOS』を上映しました。

第1回目の上映後に山戸監督、宇野維正さん、金原由佳さんによるトーク、第2回目の上映後に山戸監督、睡蓮みどりさんのトーク、映画にも出演されているひらくさんと上埜すみれさんによる朗読もあり、盛りだくさんなイベントとなりました。東北から大阪、愛知など遠方からも多くのお客様がお越しくださいました。

トーク時には多くの質問を頂きました。「一番つらい時は何をしますか？」という質問には「今が"映画だ"と思うようにしています。短い映画を撮っている疑似体験をします。」とお答え頂きました。山戸監督の紡ぐ言葉に勇気をもらった方がたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。



山戸結希監督(左)と睡蓮みどりさん

この企画を経て多くの女の子が明日への一歩を踏み出すきっかけとなれば嬉しく思います。(船越)



## 『ファントム・スレッド』

ポール・トーマス・アンダーソン監督/2017年/アメリカ/130分  
5/26(土)より公開中



骨太で野心的な作品を生み出すアメリカ映画界の鬼才ポール・トーマス・アンダーソンの最新作の題材は「ファッション」。彼にしては意外にもエレガントな題材を選んだと思えば、案の定彼はファッションそのものには関心がないようで、天才的な仕立て屋の男レイノルズ(ダニエル・デイ=ルイス)とミュージズとして迎えられたウェイトレスの女アルマ(ヴィッキー・クリープス)の愛とすれ違いが描かれる。

互いに別のものを求めながら育ちの違う男女が一つ屋根の下に暮らすことは一筋縄ではいかない。食事中にがちゃがちゃ音を立てるアルマにうんざりした神経質なレイノルズがイヤミったらしいセリフをぶつけるやりとりなど、端正に撮られてる分思わずにやけてしまう。

このアルマが次第に主導権を握っていくのだが、この「影」側の女が「光」側の男に対抗して飲み込んでいく様を真面目なギャグとして捉える感じに、ふとキム・ギョンの韓国映画『下女』(1960)を思い出す(※気になる方はネットで探してみてください)。こちらはよりデフォルメされた劇画調の作品であるが、ブルジョア家庭に雇われたメイドがその家の主人と関係を持ち一家を破滅させていくという様子を、一軒家を虫かごのように見立てプレ人間としての生き物の生(性・欲・死)を観察するように描き、恐怖や笑いといった区分けを越えたエモーションを捉える様は、どこか近しいものを感じさせる。奇しくもその主人の勤め先は紡績工場で『下女』にも「糸(=スレッド)」がモチーフとして登場する。

しかし偶々引き合いに出してしまったとはいえ『下女』と比べてしまうと『ファントム・スレッド』の空間演出は少し弱い(ヒッチコックやオフェルスの作品と比較しても同様だが)。PTAの野心は脚本のレベルでやや空転している気もする。それでもやはり十分に見応えがあったのはPTAお得意の見事な顔のアップの切り返し。スクリーンいっぱいの巨大な顔のイメージは、観客/映画(=自/他)の境界を揺るがし役者の感情の奥底と見る者のそれとを呼応させ、個を超えた超越的な力を感じさせる。

この力がハッタリのそれになるのかどうか、今後PTAの真価が問われるだろう。(佐藤)

# 『ニーゼと光のアトリエ』とあわせて 観たいおすすめ映画

『ニーゼと光のアトリエ』に関連したテーマや世界観などをキーワードに  
実行委員が選んだおすすめ映画を紹介いたします。

## 『レナードの朝』（ベニー・マーシャル監督/1991年/アメリカ/120分）

嗜眠性脳炎により30年間半昏睡状態のレナードは、意識はあっても話す事も身動きもできない重度の障害者。レナードに関心を抱いた新任 Dr. セイヤーは、試験的な新薬を投入し、機能回復を試みる。ある朝奇跡的に目覚めたレナードだが…。

この映画には訳の分からない病気の人々の尊厳が歌われているが、私はセイヤーがレナードの行動により、自身が孤独な生活を送り、人生を楽しんでいないことに気が付く事に胸を打たれた。

また、セイヤーが皆を観察するのだが、よく見る事、見ながら人間として接する事で医療を越えた関係が始まるのである。孤独な老人の眼鏡を拭いてあげるように。  
(小野寺)

## 『カッコーの巣の上で』（ミロシュ・フォアマン監督/1975年/アメリカ/134分）

言わずと知れた名作。物語の舞台は1960年代、アメリカの精神病院。院内の管理体制に反発を繰り返す主人公は、やがて“問題”の多さから電気ショック療法やロボットミー手術を施されてしまう。

一方の『ニーゼ』は1940年代のブラジル。『カッコー』の時代設定よりも十数年も前だ。そんな時代に主人公は、電気ショック療法やロボットミー手術にNOを突き付ける。患者がアートや動物を介して心を癒し、自由に表現する機会を持つことがいかに先進的な試みだったか。

『カッコー』と観比べることで、実在した女性精神科医・ニーゼの愛の深さをより実感できるだろう。  
(石川)

## 『ナース ナイチンゲールが教えてくれたこと』

(キャシー・ダグラス監督/2013年/アメリカ/52分)

職業の専門性という面で見ると、看護師は特殊な部類に入るだろう。患者のケアや医療行為の補助を行う医師のサポート役。看護学も学問としての歴史はさほど長くはなく、専門職としてまだ発展途上のもの。けれども、ときとして医師にも勝るひたむきな姿勢をもって、まさしく心身を削りながら命と向き合い続ける。

この映画はそんな看護師たちが日々感じている苦悩と喜びを記録している。小児がん患者のケア、高齢者の看取り、集中治療室。様々な現場で働く看護師の思いが語られていくが、特に最後の腫瘍患者と看護師の出会いとその後の経緯が心に残った。患者とそれをケアする者の立場が入れ替わり、またお互いを見つめ、思いやりの気持ちを深めていく。

看護師でない自分がこんなにも心を揺さぶられるのだから、看護に従事している人にはどれほどの励ましになるだろうか。  
(永井)

## 次回特別上映会 7/21(土) ベルブホール

『ストレンジャー・ザン・パラダイス』『コーヒー & シガレッツ』のジム・ジャームッシュ監督作品『パターソン』を7月21日(土)に上映いたします。

主演は『スター・ウォーズ/最後のジェダイ』の アダム・ドライバー。また1989年にジャームッシュ監督の『ミステリー・トレイン』に出演した永瀬正敏が27年ぶりに出演しています。お楽しみに!

脚本・監督:ジム・ジャームッシュ / 出演:アダム・ドライバー、  
ゴルシフテ・ファラハニ、永瀬正敏ほか / 2016年 / アメリカ /  
118分 / カラー / 配給:ロングライド

# PATERSON パターソン



© Photo by MARY CYBULSKI ©2016 Inkjet Inc. All Rights Reserved.

## TAMA NEW WAVE

### 第19回 TAMA NEW WAVE 作品募集中!

TAMA NEW WAVEは毎年秋に開催される映画祭 TAMA CINEMA FORUM 内のプログラムとして2000年よりスタートした“日本映画界に新風を送り込む新しい才能の発見”を目的とする30分以上100分以下の作品を対象とした中・長篇コンペティションです。

映画ファンである市民ボランティアから構成される実行委員会内の審査と、当日観客からなる一般審査員の投票の結果でグランプリが決まる審査形式から、観客目線で今最も面白く、注目すべき作品・才能を表彰するコンペティションとして注目を集め、これまでのグランプリ受賞監督には中野量太監督(『湯を沸かすほどの熱い愛』)、深川栄洋監督(『サクラダリセット』)、今泉力哉監督(『パンとバスと2度目のハツコイ』)等々、日本映画の第一線で活躍する監督を多数紹介してきました。

TAMA NEW WAVEでは今年11月に開催される第19回 TAMA NEW WAVEに向けて、作品を募集いたします。応募締切は6月22日(金)。皆様からの沢山のご応募をお待ちしております(応募方法の詳細はホームページをご確認ください)。

昨年(第18回)の受賞結果

グランプリ:大野大輔監督『ウルフなシッシー』

特別賞(多摩商工会議所 会頭賞):岡倉光輝監督『アマノジャク・思春期』

### 《支援会員制度のお願い》

当映画祭と一緒に支えていただける支援会員を募集しています。映画を「観る人、観せる人、創る人」の交流の場づくりを通じた、地域と日本映画界の活性化に向けて、資金面でサポートを!ご支援いただいた方には特典をご用意していますので、ぜひご協力をお願いいたします。

[支援金寄付 個人会員] 一口1,000円

郵便振替番号 00160-5-541123 加入者名 TAMA映画フォーラム実行委員会  
(ご不明な点はお問い合わせ下さい)

特典①:映画祭チラシ送付

特典②:映画祭パンフレット贈呈

特典③:特別上映会割引(当日チケットを支援会員特別価格に!上映会は2~8月の間に4~5回開催予定)

※その他特典もご用意する予定です。

TAMA映画フォーラム実行委員会ホームページ [www.tamaeiga.org](http://www.tamaeiga.org)

@tamaeiga (最新情報をフォロー) [www.facebook.com/tamaeiga](https://www.facebook.com/tamaeiga) (facebookページに「いいね!」で参加)